

■ 事業のセールスポイント

ターミナル立地の広大な都市公園を有するうめきた2期地区や、国際集客拠点をめざす夢洲地区において、最先端技術の導入・実証実験の実施を行いやすいグリーンフィールドとしての特性を活かし、豊富なデータの利活用の実現を目指し、“事業創出”・“市民のQOL向上”・“マネジメントの高度化”に資する施策に官民の枠を超えて取り組む

位置図



■ 本事業全体の概要

課題	施策	目指す姿
高齢化社会に対応した、きめ細かな都市内モビリティ確保	都市内モビリティ <ul style="list-style-type: none"> ラストワンマイルの移動快適性やまちの回遊性の向上に向け、パーソナルモビリティ・自動運転バス等の導入を図る 	将来的に公道等も含めた運用も見据えつつ、市民のストレスフリーな都市移動と、渋滞緩和・人材確保等の課題解決の実現を目指す。
施設の長寿命化、人材不足	先進的な維持管理・運営 <ul style="list-style-type: none"> AI・ロボット等の最先端技術を導入し、まちの維持管理・運営の効率化を図る 	先進技術や収集データをもとに効率化・最適化され、利用者の声も積極的に取り込むことで高度化された、新しい維持管理・運営モデルの構築を目指す。
地球温暖化対策に係る社会的要請、巨大地震、パンデミック等有事への対応	環境・防災対策 <ul style="list-style-type: none"> 帯水層蓄熱等の先端技術を活用した、効率的なエネルギーマネジメントを目指す 行政と連携した防災情報発信を実現する 	新しい低炭素モデルのショーケースを目指す。防災公園として、行政との情報連携により、災害時の安心・安全の確保を目指す。
市民のQOL向上による「関わり続けたい」まちづくり、インバースョンによる関西経済の浮揚	ヒューマンデータの利活用 <ul style="list-style-type: none"> ヒューマンデータを収集し、市民のQOL向上や事業創出につなげる仕組の構築を図る 	市民からの消費者としての声やヒューマンデータの提供を通じ、生活者視点に基づく事業創出、市民のQOL向上の促進を目指す。また、市民が新製品・サービス開発に積極参画するまちの実現を目指す。
	まちの貢献ポイントの導入 <ul style="list-style-type: none"> 市民のQOL向上と地域活性化に向けて、「まちの貢献ポイント」の導入を図ることにより、市民のまちの活動への積極参画を促進する 	

■ 対象区域の概要

- 名称 うめきた2期地区、夢洲地区
- 所在 大阪市北区大深町ほか
- 面積 うめきた2期:約17ha
夢洲:約225ha(万博予定地区等)
- 人口 うめきた2期地区居住約1300戸

■ 対象区域のビジョン

- 大阪・関西は、「日本の成長をけん引する東西二極の一極（副首都）として世界で存在感を発揮する都市」を目指し、次のビジョンを掲げる
- 【ビジョン①】人が集う
- 【ビジョン②】充実したインフラ
- 【ビジョン③】魅力的な環境
- 【ビジョン④】強い産業・技術

施策横断的な取組方針

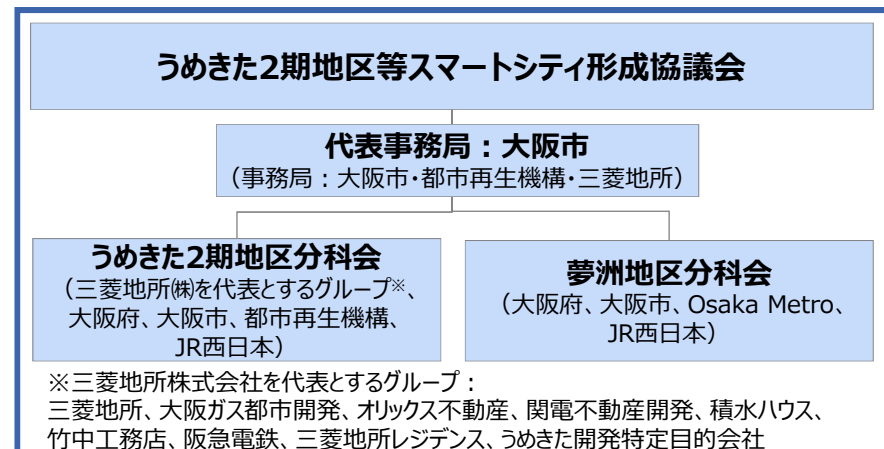
- まちのマネジメントデータ・ヒューマンデータの活用を検討し、スマートシティの深度化を目指す
- データ取得に際し、実証実験フィールドとしての特性を活かす
- 提案地区における平時の経済活動及び非常時の災害対策等の各種サービス実施を支える、屋内・外の5G通信基盤を整備する

■ スマートシティの目標(KPIの設定)

事業創出	<ul style="list-style-type: none"> ● 街区で取得したデータの利活用を通して生まれるプロジェクト数 など
QOL向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 提案地区で構築予定の会員プログラムの登録者数 ● 市民主導・参加型プログラムの実施数 ● 就業者の交流促進サービス数 ● 都市内モビリティによる移動快適性 など
マネジメント高度化	<ul style="list-style-type: none"> ● AEMS・ZEB等によるエネルギー利用削減率 ● 画像解析等を活用したスマート管理による建物・公園の維持管理の省人・省コスト効果 ● 植栽管理の省人・省コスト効果 など

※ 項目については暫定案を記載。今後、具体化を検討

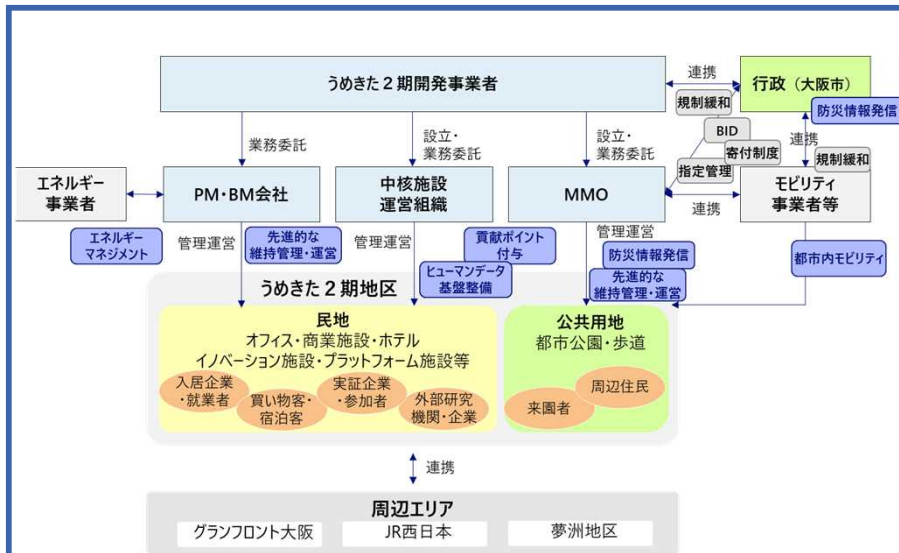
■ 運営体制



■ 導入技術

都市内モビリティ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 新たな技術を駆使したパーソナルモビリティや自動運転バス等の導入により移動快適性の向上を図る ◆ 先進的な取組みとして、安全性を確保するため、遠隔で速度制限可能なパーソナルモビリティの検討を行う 	環境・防災対策	<ul style="list-style-type: none"> ◆ AEMSや帯水層蓄熱など先端技術の導入、省エネ活動へのテナントの参加促進による、提案地区の環境負荷低減を図る ◆ 特に、帯水層蓄熱の本格導入は日本初である ◆ 災害情報一元管理により、防災施策の高度化を図る
先進的な維持管理・運営	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 維持管理・運營業務の省人化や、業務計画の適正化に向けて、下記テーマの検討に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ✓ ICTを活用した次世代駐車場運営検討 ✓ 画像解析等による取得データを用いた運営・管理の効率化 ✓ ICTツールを活用した次世代植栽管理 ✓ ローカル5Gの導入・活用 ✓ ロボット・AI等の管理・運營業務での活用 ◆ ICT化が遅延している傾向のある植栽管理の分野において、ウェアラブル端末による報告書作成の自動化や遠隔作業指示は先進的な取組みである 	ヒューマンデータの活用	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ヒューマンデータを利活用した事業創出に取り組む事業者の、事業創出活動を促す取組みとして、ヒューマンデータを収集する基盤あるいはデータ利活用支援からなる「ヒューマンデータ活用基盤」環境の構築を目指す
		まちの貢献ポイントの導入	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 市民のQOL向上と地域活性化に向けて、まちの運営への市民の積極的な参加促進とヒューマンデータ収集のために、貢献行動を促進する仕組みの導入を検討する

■ ビジネスモデル



※MMO：うめきた2期開発事業者が組成予定である、エリアマネジメント・パークマネジメント組織

- 提案地区の**管理・運営コストを削減**しつつ、取得データを活用し、**市民のQOL向上に資するサービス提供、企業への事業創出の機会提供**を行うことで**エリア価値を向上**し、持続可能なスマートシティモデルを実現する
- うめきた2期では、都市公園・歩道等の公共空間を対象区域に含んでいる点が特徴であり、BID制度や指定管理者制度の活用に加え、持続可能な運営管理に向けた規制緩和の活用も視野に、データ取得・利用主体の整理等について協議し、官民連携によるスマートシティの実現を目指す。

■ スケジュール

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	～
都市内モビリティ				取組み内容の具体化 公道実証・技術開発・ポート設置検討等	運営検討	
管理・運営				取組み内容の具体化 技術検証 実現方法検討(システム・設備等)	管理・運営計画への反映 システム開発	運営検討
環境・防災対策				取組み内容の具体化 技術検証 実現方法検討(システム・設備等)	管理・運営計画への反映 システム開発	運営検討
ヒューマンデータの活用				取組み内容の具体化 事業スキーム検討 実現方法検討	事業スキーム構築 システム開発	運営検討
まちの貢献ポイントの導入				取組み内容の具体化 事業スキーム検討 実現方法検討	事業スキーム構築 システム開発	運営検討

2024年度: うめきた2期 一部先行街開き 実装
2025年度: 大阪・関西 万博

近隣エリア・夢洲地区への展開
他都市への横展開
広域化・高度化の検討

事業創出

市民のQOL向上

マネジメント高度化

うめきた2期地区

ターミナル駅への隣接性や巨大な「みどり」を活かした先進的・将来的・汎用的なスマートシティ施策

夢洲地区

国際集客拠点化に向け、最先端技術を活用した円滑で快適なモビリティの実現

環境・防災
対策



まちの貢献ポ
イントの導入



先進的な
維持管理・運営



ヒューマンデー
タの利活用



都市内
モビリティ

